

平成二十年度の転作作物の推進について伺います



榑木 孝治

質問 外国の安い農産物に目を向け、自国の農業は崩壊寸前。中国の餃子を始め、食の安全が脅かされている現在、農業の意識改革が必要である。米余り解消及び米価の値下がり防止のため、当市の転作奨励金の対象となる麦、大豆の推進について、また、飼料米、バイオエタノール米の今後の対応について伺います。

答弁 麦、大豆の生産については、気象条件が非常に大事であり、湿地帯の多い本市では、非常に栽培が難しいという結果が過去にでている。また、麦については、水稲に比べ価格が安価である。大豆については、栽培指導の徹底、生産コストの問題等があるので果樹、あるいは野菜類の組み合わせを考慮した転作を奨励している。次に、飼料米、バイオエタノール米については、生産することを推奨しても麦と同じように生産コストが安く、現在では生産農家がないのではないかと思われる。現在、職員に

よるバイオマス研究会が設置されており、今後、同研究会で研究させていきたい。

榑協高校の跡地利活用について



岩下 早人

質問 榑協高校存続の期待が裏切られた地域住民の想いは跡地の有効活用による地域活性化に期待が膨らんでいる。榑協地域振興策検討会で協議され、成果も出ているが、県としては市の意向に沿った活用策を検討するとしており、企業、専門学校等の誘致策を示すよう要請している。住民の意向調査や利活用策を住民へ示すなど、今後の方針はどのように考えるか。



榑協高校

答弁 榑協高校は、来年三月閉校となるが、跡地利用については、県や地元と協議を行っているもののまだ具体的には申し上げられる段階ではない。また、校舎の用地を含め二十ヘクタールぐらいあるので有効活用でき、榑協の活性化につながるよう研究をさらに進めていきたい。

肥薩おれんじ鉄道の経営安定化策について



池脇 重夫

質問 開業に向けた議論の中で、当初十年間は黒字経営で推移する計画であったが、現実には開業初年度八百五十五万円の黒字で、その後は赤字経営が続き、今後の収支見通しも毎年一億円から二億円近い赤字が見込まれている。今後も沿線住民の足として存続を図るためには、特色ある発想と関係者の営業努力に加え、何等かの対策が必要と思うが、市長の考えを伺いたい。

答弁 平成十六年三月にスタートしたが、一年間だけ黒字で、赤字経営が続いている状態である。こ

の赤字を少しでも減らすため、利用促進対策として、県および沿線の市・町と一緒にイベント等や企画切符等により利用客の増加に努めているところである。沿線人口の減少、道路整備等の進展による車の利用等による利用者減、他交通機関とのアクセスの未整備など諸々の要因があるので、利用促進に向けて現在も調査・分析し関係機関と協議を行っている。今後、更に利便性の向上を図り、乗降客数増につながるよう関係団体と協議していきたい。

地域格差の是正について



瀬尾 和敬

質問 過疎高齢化が全国的に深刻な問題になっている。これまで自然を守ってきた地域が限界集落に陥り活気が失われる懸念がある。過疎地域の活性化は至上命題である。①過疎高齢化に悩む地域にどのように手を差し伸べるか。②デジタルデバイド(情報格差)是正も地域活性化の一翼を担うものがある。ブロードバンド化をどうするか。

答弁 ①過疎地域の活性化のため、